

第1章 新市のすがた

1. 新市の概要

(1) 位置と地勢

新市は三重県の北西部に位置し、北は滋賀県、西は京都府、奈良県と接している。近畿圏、中部圏の2大都市圏の中間に位置し、それぞれ約1時間の距離となっている。近年ではこのような条件から三重・畿央地域として首都機能移転候補地にも挙げられている。

地形は北東部を鈴鹿山系、南西部は大和高原、南東部を布引山系に囲まれた盆地を形成しており、低地・台地は少なく、丘陵地が多くなっている。このため、限られた平地や台地を農地や宅地として利用しているが、近年では丘陵地等を開発し、住宅団地なども形成されている。

また、水系は大阪湾に流れ込む淀川の源流域であり、近畿圏域の水源地となっている。当地域を取り巻く森林は地域の景観を形成するとともに、水源かん養、水質ろ過等の公益的機能を発揮している。

(2) 人口と面積

昭和50年頃までは人口は減少傾向であったが、その後、企業の進出や住宅団地の開発などにより、人口は緩やかに増加しつつある。近年においては経済の低迷や住宅団地への人口流入が落ち着きを見せ始めたことにより、全体として微増にとどまっている。

特に住宅団地を抱える地域では、同世代の世帯が急激に流入したため、高齢化も急激に訪れることが予測される。なお、北部地域は、昼間人口、夜間人口に大きな差異は見られないが、南部地域では大阪方面への通勤・通学者が多く、昼間人口が少なくなっている。

世帯数については、核家族化や住宅団地への流入等により増加しているが、1世帯あたりの人員は年々減少の傾向にある。

また、新市は、東西約30km、南北約40kmの縦長で、面積は約558km²になる。

土地利用としては森林が全体の約62%を占める一方、農用地が約14%、宅地は約5%となっている。

市町村名	上野市	伊賀町	島ヶ原村	阿山町	大山田村	青山町	計
総人口(人)	61,493	11,019	2,752	8,427	5,987	11,849	101,527
年少人口(0~14歳)	8,420	1,733	291	1,294	810	1,944	14,492
	13.7%	15.7%	10.6%	15.4%	13.5%	16.4%	14.3%
高齢人口(65歳以上)	14,065	2,493	838	2,022	1,697	2,251	23,366
	22.9%	22.6%	30.5%	24.0%	28.3%	19.0%	23.0%
世帯数(戸)	21,136	3,294	792	2,364	1,684	3,504	32,774
面積(km ²)	195.26	62.01	22.95	72.97	95.98	109	558.17

出典：H12 国勢調査

(3) 6 市町村の沿革

上野市

明治 22 年の町村制の実施により上野町となり、昭和 16 年には阿山郡上野町・小田村・三田村・城南村・新居村・長田村・花之木村の 1 町 6 村が合併し、人口 33,000 余人の「上野市」が誕生した。さらに昭和 25 年には同郡府中村・中瀬村・友生村・名賀郡猪田村を、昭和 30 年には、同郡丸柱村比叢河内（諏訪）・名賀郡依那古村・比自岐村・花垣村・神戸村と合併、昭和 32 年には名賀郡古山村と合併した。

伊賀町

明治 22 年の町村制の施行により阿拝郡東柘植村、西柘植村、壬生野村が生まれた。昭和 17 年には阿山郡東柘植村が町制をしき柘植町となった。さらに昭和 30 年には阿山郡柘植町に同郡阿山村小杉を編入した。

一方、昭和 30 年に阿山郡西柘植村と同郡壬生野村が合併し、同郡春日村となったものの、昭和 34 年には同郡柘植町、春日村の 1 町 1 村合併により、「伊賀町」となった。

島ヶ原村

明治 22 年の町村制施行以来、100 年以上単独村として村政を施行した。

阿山町

昭和 29 年、阿山郡河合村・玉滝村が合併し阿拝村となり、同年さらに同郡阿拝村と鞆田村が合併し、阿山村となった。次いで、昭和 30 年、同郡阿山村と丸柱村の丸柱・音羽が合併したが、同郡旧鞆田村の小杉を柘植町（現伊賀町）に分離した。その後、昭和 42 年に町制を施行し、「阿山町」となった。

大山田村

明治 22 年の町村制施行により山田郡山田村、布引村、阿波村が誕生した。昭和 30 年にはこの 3 村が合併し、「大山田村」となった。

青山町

明治 22 年の町村制施行により、伊賀郡阿保村、上津村、種生村、矢持村となり、大正 9 年には名賀郡阿保村が町制をしき、同郡阿保町となった。昭和 30 年には同郡阿保町、上津村、種生村、矢持村の 1 町 3 村が合併し、「青山町」となった。